

統計

●一九一五年獨逸に於ける鋼鐵材の産額

獨逸鐵鋼製造組合の調査によれば一九一五年獨逸ツォールフェライン（ルクセムブルグを含む）に於ける壓延工場
の總産額は一九一四年の一三、一六五、五八九屯、一九一三年の一六、六九八、九五〇九屯に對し一四、二四三、三六〇屯なり。今一九一四年の平和時の七ヶ月及び戰時の五ヶ月に於ける産額をこれに相當する一九一五年に於ける同期間の産額に比較すれば次の如き結果を見るへし。

一九一四年 一月―七月 九、七〇〇、三八九屯（平時）
一九一五年 一月―七月 六、三三九、六五七屯（戰時）
一九一四年 八月―十二月 三、四六五、二〇〇屯（戰時）
一九一五年 八月―十二月 四、九一三、七〇三屯（戰時）
一九一四年平時七ヶ月に於ける毎月の平均産額は、一、三八五、七七〇屯、一九一五年に於けるこれに相當するものは九〇四、二三七屯にして凡そ前者の六五パーセントに當れり。

一九一四年八月より十二月に至る間の一ヶ月に於ける平均産額は、一九一五年の同一期間に於ける九八二、七四一屯に對し六九三、〇四〇屯なり。次に示す表は地方別の産額なり。

製品別にせる生産高は次の如し

地 方	一九一四年		一九一五年	
	七月	八月	七月	八月
リーネラント及ヒウエストフアリア	五、二七、七八〇	三、六、八六四	三、六、五、二九八	三、八、九〇、五五六
シレシア	七、四、六〇一	三、四、五、九九四	五、八、三、六九三	四、五、五、九六四
ギーゲルラント、ウエツラー及びヘツセナスザウ	二、四、四、四三三	一、〇〇、二、三三	一、七、三、四一	一、四〇、五〇一
北部及中央獨逸	三、七、二、六三三	一、五、三、三一一	二、五、六、三三二	一、七、一、二七八
ザクソニー	一、四、三、九一〇	七、五、八、二〇〇	一、三、三、九九二	七、四、八、三七
南部獨逸	二、三、三、九七〇	四、一、五、五八	七、八、五、九九	五、七、五、五三
ザール地方及ライン、パラチネート	六、三〇、五八八	二、二、三、三九七	四、八、五、六〇六	三、三、九、八〇六
アルサスローレーン	一、三、三、三六三	一、四、五、九九九	五、五、三、三九九	四、三、八、四三三
ルクセムブルグ	七、三、三、四三三	一、三、一、〇四五	四、三、五、二五六	三、六、四、七六六
合 計	九、七、〇、〇九八	三、四、六、五、二〇〇	六、三、三、九、六五七	四、九、一、三、七〇三
半製品(賣品)	一、五、三、三、六四	四、五、三、二六	九、二、九、九〇	七、三、〇、〇二七
鐵道材料	一、二、七、四、三七五	五、九、二、七二	八、六、八、七九四	五、五、五、七五四
シヨイスト	九、四、六、八五三	二、四、五、三、九四	四、八、七、一七〇	二、七、九、四八三
棒鐵	三、六、八、一三九	八、八、六、七六	一、八、四、九、二六八	一、四、七、九、五二七
フープ鐵	三、七、七、二三四	九、一、七、七九〇	一、四、九、八、八五	一、一、五、三、五五四
壓延針金	七、〇、七、五九四	二、九、四、四八	三、八、八、三三四	三、六、三、五六〇
厚板	八、二、七、四六八	三、五、五、四六	五、四、八、〇〇〇	四、八、八、七七八
薄板	五、八、六、九二	二、〇、一、二二	三、五、三、六七	二、七、六、〇三三
鍍力板	五、一、三、三三	三、四、一、三六	五、一、四、四四	四、〇、三、七〇
管類	四、四、九、九三七	一、五、五、七三	三、五、三、七七八	二、〇、四、九、八七
壓延中のもの	一、九、〇、〇〇〇	七、八、〇、四八	二、三、三、三四	七、七、七、七六
鍛冶品	一、三、四、八八	七、三、六、三七	二、六、三、五三	一、〇、一、二、六八
其他仕上り製品	八、八、四、二二	七、五、五、五五	三、六、三、〇三	三、〇、〇、七七八
合 計	九、七、〇、〇、三九	三、四、六、五、二〇〇	六、三、三、九、六五七	四、九、一、三、七〇三

戰時の一九一五年に於ける産額は平和時の一九一三年に

88 於ける産額一六、六九八、九五〇屯の六七パーセントに相當せり。一九一五年並に一九一三年に於ける種々の製品の産額を示せば次の如し。

製品名	一九一三年	一九一五年	平和時産額の百分率
半製材料	二、七九九、九九〇 ^屯	一、六四一、九五一 ^屯	五〇%
鐵道材料	二、四七〇、〇六五	一、四二四、五四八	五八
ジョイスト	一、五五五、五一	七六六、六五三	四九
棒鐵	四、四二九、五五八	三、三二八、六八五	七五
フープ鐵	三九五、六〇二	二六五、一三九	六七
壓延針金	一、一五七、八七三	七五〇、九三四	六五
厚板	一、四〇八、五九一	九六六、八九八	六九
薄板	八九〇、〇四六	六二八、六九五	七一
鋲力板	八三、〇五一	九二、七五一	一一二
管類	七五〇、〇八四	四六〇、七六五	六一
壓延中のもの	三七四、〇八二	一九二、〇八〇	五一
鍛冶品	二〇七、六〇二	二二六、六八〇	一一四
其他仕上り製品	一七六、八九五	四八七、五八一	二七六
合計	一六、六九八、九五〇 ^屯	一、二四三、三六〇	

獨逸に於ける銑鐵の産額

獨逸鐵鋼製造者協會の統計によれば最近獨逸に於ける銑鐵は左の如し。

品名	一九一六年四月	一九一六年三月	一九一五年四月
鑄造用銑鐵	一五、八八五	一六、五五五	三〇、四八八
ベツセマー製鋼用銑鐵	一三、八六四	一六、六九五	一四、四三六
オブンハース製鋼用銑鐵	六、七六九	七、三六九	六、三六二
製鋼用及スピーゲル用	一、七七四	一、〇一三	一、五〇三
鍛鐵用	一、八五四	一、九八四	二、四六一
合計	一、〇三、七〇六	一一、二四、二九四	六、八、七六九

銑鐵の需要は非常に多く特に燐の少きもの及び満庵銑鐵はその甚しきものなり自國外よりの需要も相當ある模様なり。尙聞く所によればルクセンブルグ銑鐵の大口注文を引受けたりと。

●印度に於ける鐵及鋼

印度産の金屬中主なるものを、鐵、鋼及び鉛とす。鐵又は鋼の輸出額は五二、八〇〇屯、價格一九〇、〇〇〇磅に上り。印度に於ける鐵鑛の産額は一九一一年に至るまでは毎年少しの變動もなく年額八〇、〇〇〇屯なりしか其後サクチ(Sakchi)のタタ鐵鋼會社(Tata Iron and Steel Co.)の製産額増加によりこの年額は四倍に急増するに至れり。一九一四年六月迄には鋼の製品額、品質共に増進し且一九一四—一五年度に於ける政府筋の軌條大口契約を完結せり。サクチに於ける使用人數は一日平均八、五七四人にて其内一八五人は歐洲人なり(グラマイシニ、バンポツシユ、コイトデーイ及びペラタンドに於ける労働者五、一〇〇人はこれを除く)。

軌條及繼目飯は建築材料、スプリング材料、工具材料及び六角鋼と等しく印度の諸鐵道に供給しつつあり。船腹不足の爲め銑鐵の在庫高は増加せり。一九一三年に鐵鑛の大なるものを發見したるかためベンガル鐵鋼會社(Bengal Iron and Steel Co.)はバラカーに於ける工場を擴張する餘義なきに至れり。該會社は一九一四

年に七二、四四四屯の銑鐵（一九一三年には五九、三七九屯を産せり）及び管類、鐵道用スリーバー、鋼柱、鑄造品等一八〇四八屯を産出せり（以上The Ironmonger, May 27thより）

●世界船舶の總數

紐育ウオールド、ストリート、ジヤナル、に依れば開戰當時世界船舶は三千三百五十三萬一千五百五噸なりしに今日通商に使用し得るは二千〇七十九萬七千〇五十四噸で約六割二分に過ぎない、而して交戰諸國の所有額は二千四百四十三萬二千四百四噸にして、全世界船舶の六割五分を占めて居る、左に聯合側、同盟側、中立側の所有する船舶噸數を示さん。

聯合側

帆船 汽船 合計

英吉利	九〇二、七一八	一〇、九九二、〇七三	七一、八九四、七九一
佛蘭西	六二四、五二一	八三八、一一八	一、四六二、六二九
白耳義	七、六一六	一七四、〇二一	一八一、六三七
露西亞	一五六、八四四	四九四、七六一	七五六、六〇五
伊太利	四一〇、九九一	六九六、九九四	一、一〇七、九八五
葡萄牙	四二、八四四	七〇、一九三	一一四、〇三七
日本	四四七、三〇七	一、四三〇、三二九	一、八七七、六三六
計	二、六九三、八四一	一四、六九六、四八九	一七、三九五、三三〇
同盟側			
獨逸	四九八、二二八	二、六五五、四九六	三、一五三、七二四
奧匈	三〇五、五〇〇	三〇五、〇四一	六一〇、五四一
土耳其	二〇五、六四一	六六、八七八	二七二、五一九
計	一、〇〇九、三六九	三、〇二七、四一五	四、〇三六、七八四

統計

中立國

米國	一、五〇七、六三〇	五、三三五、五七四	六、八四三、二〇四
諾威	六三二、九八九	一、〇八五、六一七	一、七一八、六〇六
瑞典	一八〇、七八三	八六八、三三〇	一、〇四八、九一三
丁抹	九一、〇八八	四一五、四三五	五〇六、六二四
和蘭	四〇、六三六	五七六、六七八	六一七、三一四
西班牙	四四、三二五	二五〇、〇八一	七九四、四〇六
希臘	一三六、九八九	四三三、六三三	五七〇、三二二
計	二、六三三、九四〇	九、九六五、三四九	一二、〇九九、三八九

以上の如くにして聯合側總噸數の六割五分は英國の所有である、尙ほ四百萬噸を越ゆる同盟側の船舶は或は自國の港灣に封鎖され、若しくは空しく中立港に屏息して何等の用をもなして居ない。同時に開戰當時獨逸の港灣にありし聯合側の商船は容易に敵國の拿捕する所となり又た露國商船の一半も黑海に封鎖されて居る、今日使用し得る商船中千二百〇九萬九千三百八十九噸は中立側の商船にして運賃を左右するは重に此中立國の船舶である。

●本邦船舶現在

遞信省の調査に依れば六月末現在の本邦船舶數は、汽船二千五百五十七隻總噸數百六十五萬四千二百三十八噸帆船九千三十一隻總噸數五十五萬九千六百七十七噸石數船千二百一十一隻積石數三十九萬四千二百三十五石にして、内一千噸以上の汽船其他左の如し。

▲汽船

千噸以上二千噸未滿	一二八	總噸數	一九三、二四九
二千噸以上三千噸未滿	一二九		三一八、一五五

三千噸以上四千噸未満	八五	二八四、四七四
四千噸以上五千噸未満	二八	一二三、六七四
五千噸以上六千噸未満	三〇	一七〇、三四六
六千噸以上七千噸未満	一二	七五、三六〇
七千噸以上八千噸未満	一三	九七、六九〇
八千噸以上一萬噸未満	六	五七、〇五二
一萬噸以上	五	六一、六八三

▲帆 船	一	二、四三九
二千噸以上	一	

▲石 數 船	一	一、四三七
千石以上	一	

●鐵産額激増

本邦に於ける鐵産額は最近著しく激増し、五月中此産額は一日七十五萬圓にして前年同期に比し六割七分餘の増加となり、更に一月以降の累計に於ては七百五十六萬餘貫前年同期間の累計に比し四割二分の増加を示せり、之に關し農商務當局語りて曰く最近に至り鐵産額の激増せるは岩手縣栗木及仙人兩鑛山に於て銑鐵が約二倍半増加せるを始め、其の最も大なる原因は釜石鐵山が昨年以來擴張の結果本年末には一ケ年約十萬噸位の銑鐵を産出し得べき順序上に依るものなり、同鐵山六月末の産出額は

大正五年	大正四年	
△銑 鐵	四、八六七、八五〇貫	三、九四四、五〇〇貫
△鋼 鐵	三、一五九、五四八貫	一、九四六、三七〇貫

にして、何れも昨年比し本年は多額の増加を示せるに見るも其基因する所明白なるへし、尙釜石鐵山は已に第三高

爐の修繕も終了し又從來休止し居りしものも此際大に活躍すべく、又其擴張工事も大正六年度末迄には完成する筈なれば同鐵山のみにてても其産鐵額は銑鐵約三倍鋼鐵約四五倍の産出を示すへき見込なりと。

●半季鐵輸入高

農商務省最近の調査に依れば本年上半年鐵類輸入高はレールに於て三十九萬一千圓を減少せる外凡て増加を示せり、即ち條竿鉄類一千九百萬圓塊鐵三千六百萬圓、鐵釘二百萬圓、筒鐵及管鐵五十萬圓、合計五千七百五十萬圓の増額となれり、而して條竿鉄類の増加は英米兩國より又塊鐵は支那方面及英國、瑞典等よりの輸入増加に基くものにして何れも造船界般盛軍需品製造の繁忙に基くものとす、又洋釘の増加は昨年洋鐵類昂騰の際發したる見越註文品が巴奈馬運河の閉塞船腹の不足等により輸入澁滞したるも、其後運送の便も稍や開けたるより續續着荷したるによる者なるべし今之が詳細なる統計を示せば次の如し。(單位千圓)

種別	本年上半期輸入額	前年同期に比し増△減
塊 鐵	五、八三三	三、五五九
條竿板鐵類	二六、二一六	一八、七四一
レール	八六	三九一
筒鐵及管鐵	一、二七七	五一五
鐵 釘	二、一五〇	二、〇八〇

●全國工場及職工數

工場法施行に伴ふ關係勅省令は既に發表せられ愈々實施を見る事となりたるが、最近

農商務省工場課の調査によれば全國工場及職工數は

工場數	職工數
染織工場	一三、二四九
機械及器具工場	三、一三四
化學工場	三、二二一
飲食物工場	五、六八八
雜工場	六、一三〇
特別工場	二九一
合計	五六七、五八七
	九八、六一九
	九三、四二三
	七七、六八五
	一〇一、四七九
	九、五五二

にして合計三萬七千七百七十七工場職工數は九十四萬八千二百六十五人なり、此外勞働人夫男四萬七千五百九十七人女二萬一千七百五十七人合計六萬九千三百五十四人なり、更に右職工數を男女別にするとときは

	男	女
染織工場	八一、一〇六	四八六、四八一
機械及器具工場	九四、一七一	四、四四八
化學工場	六三、六二七	二九、七九六
飲食物工場	六四、六二一	一二、九八四
雜工場	七一、一四八	三〇、三三一
特別工場	九、二八四	二六八
合計	三八三、九五七	五六四、三〇八

となる、更に又各種工場全體を通じ之を年齢別に男女を區分する時は左の如し

	男	女
十二歳未満	一、〇三九	二、〇一二
十二歳以上十四歳未満	九、二四七	三一、七五三
十四歳以上十六歳未満	二四、九三七	九一、五二七
十六歳以上二十歳未満	六六、六〇七	二〇一、九二四
二十歳以上	三八二、一二七	二三五、〇九二

尙等之各工場の一箇月の休業日數及一日の就業並に休憩時間の平均を見るに

工場	一ヶ月 休日數	一日就業 時間數	同休憩 時間數
染織工場	三・四日	一、〇一四、〇時	一、〇一、半時
機械及器具工場	二・三日	一〇、〇一一、半時	一、〇一二、〇時
化學工場	二・四日	一〇、半一二、〇時	一、〇一二、〇時
飲食工場	二・四日	九、半一三、半時	一、〇一三、〇時
雜工場	二・三日	九、〇一二、〇時	一、〇一二、〇時
特別工場	四日	一〇、〇一一、半時	一、〇一一、半時

にして、各工場の業種別に依り夫々差異あるが以上は普通の場合にて、徹夜等の場合には一日の就業時間多少縮少し休憩時間は却て三十分乃至一時間延長し居れり。

●世界銑鐵産額 農商務省の調査に依れば最近九箇年間(千九百六年より千九百十四年迄)に於る一箇年平均歐米諸國銑鐵産額及ひ同増加率左の如し

國名	製産高	増加率
米國	二五、五九六、一八四 <small>佛地</small>	六九、六
獨國	一四、六五一、四三一	七三、二
英國	九、七七六、七一一	六、八
佛國	三、六一九、二七五	三六、九
露國	三、三七五、八〇四	三八、九
白耳義	一、七九七、七八〇	六七、〇
奧洪國	一、六九九、一〇二	三一、六
加奈太	七四七、二六四	二八五、六
瑞典	六〇七、九七二	一七、三
西班牙	三九六、〇七六	二六、八
伊太利	二二二、〇〇六	九七〇、九
其他	五六一、〇〇〇	三、三

●輸出 入貨物品別表 (大藏省發行の大正五年六月外國貿易月表中鐵及鋼に關するもの左表の如し)

第一 輸出貨物品別表

内國産品	大正五年六月		大正五年累計		大正四年六月累計	
	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)
鐵管(斤)	七九三、四六六	九〇、一九六	二、四〇六、五四六	三〇〇、七七一	七三二、〇一五	四三、一三二
屑鐵及故鐵(斤)	一一一、〇三三	六、九七七	三、四九八、七八二	一六〇、五四七	五、六〇四、三三三	一三四、八七〇
鐵鍋及鐵釜	—	—	—	—	—	—
鐵製品	—	—	—	—	—	—
人力車(輛)	八八六	三五、二九三	三、二八六	一三六、七三六	三、三六三	一一〇、二六三
船舶(汽船)	四	二二、七一九	一〇	四九二、七三九	三	三二、〇〇〇
同(其他)	—	—	—	—	—	—
機械同部分品及附屬品	—	—	—	—	—	—
石炭	—	—	—	—	—	—
石炭(噸)	三三六、七八三	一、六〇三、六二〇	一、六四九、五八四	二、〇一三、五九三	一、四〇〇、五八六	九、六三〇、八二九

第二 輸入貨物品別表

外國産品	大正五年六月		大正五年累計		大正四年六月累計	
	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)
鐵(鑛(擔))	六二二、一七四	二二一、八四三	一、三九四、六六三	五〇五、八九三	一、二二二、一九三	四二二、一九三

銑	鐵	塊	及	錠	條竿	ワイヤ	板	板	板	線	線	帶	線索	筒	屑	釘	鐵道建設材料	電線支柱				
スビロゲルアイゼン(斤)	フエロマンガニース(斤)	フエロシリコン及シリ(斤)	コスヒーゲルアイゼン(斤)	フエロクロロム其(斤)	他不可鍛性鐵合金(斤)	インゴット及スラブ(斤)	ピレゴット及スラブ(斤)	ケツグ及バンブースチル(斤)	二八〇、八六一	一九、九五九、二七六	三、八五一、〇一〇	二四六、三三九	二九四、九一〇	六、五八二、四八六	七、八二、二九七	二、五三三、五三八	一二六、八二七	二五、八五〇	二、三七三、二二三	四、八九四、九八四	二、三九三、三〇九	七、九、八七六
鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	鐵(斤)	
五二、〇五六、九四六	一、七二七、五八〇	一五〇、九五八、八四一	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	一、七二七、五八〇	
五、四三七、九七三	八八、九、三五二	一、五九一、三〇四	一、四一五、八〇六	一八四、八九六	六、一三八、四五〇	四一四、四七九	一〇九、二八七、〇〇三	一一、三九二、一九五	九三八、三四六	二、三二〇、九五	三、一八〇、四二九七	二、八三一、四五九	一、四四九、〇三三	二、五五四、四七二	三、五七、三八	一一、〇九二、六五七	一五、二四四、三九三	二、三八六、八九四	一、三四七、〇二四	三、八、七八三	三、七三二	
五、四三七、九七三	四八、七〇六	二、〇四〇、八三	一、六三、四五六	五〇、四八二	七、七七、九二六	八四、三二八	九、一三一、九五二	一一、二五、二一九	八六、八七八	三〇〇、七二八	四、四二二、七三四	三、一〇、五〇七	一、八〇〇、三二四	二、五八、九〇八	六八、三九九	一、二九三、四五〇	四九三、四四三	二、五二九、五三二	九〇、五六一	三、七三二	三、七三二	
八七、四三五、三八七	七九五、九一七	二、四八八、一一〇	一、四六三、四三六	一、六六三、六二七	二、四三五、九四五	九一、三四五	三〇、〇四七、五七一	三、六四六、四六五	八五、七〇八	二、六六四、五三一	二、九三三、二五〇	一、三五九、〇八二	一九、〇一三、一七三	六三九、二二五	二五三、九三三	九、〇八九、〇五四	一、八四六、九〇九	一、九〇六、一六七	一、三〇七、三〇八四	三、七三二	三、七三二	
二、〇二九、二七六	三六、一四五	一九五、〇九三	一四〇、七三一	二八八、二二六	一九四、九六九	七、六五七	一、五四五、六九八	二、二五、八三三	四、二七一	二、五三、〇一七	二、二七、八三九	一〇一、五五一	一、四七、一八八	四一、六三七	四六、一七〇	七、七〇、七三七	六〇、六三二	二八一、三三四	四九六、五八三	四六八、九	四六八、九	

統計

八七一

外 國 產 品	大正五年六月		大正五年累計		大正四年六月累計	
	數	價 額(圓)	數	價 額(圓)	數	價 額(圓)
家屋橋梁船舶等建設材料	一七五、三三三	三〇、八二一	一、四三六、八六三	二二一、三三二	四〇七、三七二	四七、五五五
鐵道車輛及部分品	—	一八、一五八	—	七二、七六四	—	三二七、六二七
自動車及部分品	一九	七三、九三三	一〇〇	二九一、七九四	一三	三六、四五四
自轉車及部分品	四三三	二、四三九	三、八四六	五三、九四一	一八、四三二	一三六、一八六
汽船 (船齡十年以下)(隻)	—	—	—	—	二	一、八四〇、三二六
同 (其 他)(隻)	三	一五〇、六〇〇	一〇	二、一七六、七二六	四	四三三、九三四
汽罐同部分品及附屬品	—	—	—	四五八、二八三	—	二三〇、四七七
フューエルエコノマイザー(斤)	九五、六三三	九、五三四	三二七、三九五	三一、七三三	三九九、三七八	三五、三九三
鐵道機關車同炭水車	—	—	—	四四、二三三	—	一七六、七四〇
蒸氣機關及スチームタービン	—	—	—	二九、六八八	—	三三、八二〇
瓦斯石油熱氣機關	四、六三三	六、九七三	三六八、九九三	一一八、〇一一	一七三、一三二	一一三、〇一一
ウオータータービン及ベルトン水車	—	—	二四八、五三〇	一一五、二〇五	八六、〇三七	三六、五二一
發電機電動機類	一〇六、一四三	六二、六七九	二六八、九二七	一五二、一九四	六九七、八九八	二五五、二二五
縫 衣 機	二〇、四五八	三六、五九九	一〇四、九四四	一八五、五八七	一八八、九九〇	一五五、六五二
金屬工及木工機械	一三五、四七一	九九、五九〇	一、四三六、六七四	六五九、一六五	一、〇〇八、五〇四	三八八、七八二
紡 績 機	七七七、三三〇	二二六、〇五五	二、四九〇、九三九	六九七、九一六	二、二九五、七七九	一、六三八、八八〇
石炭コークス(石コークス(噸))	四五、〇九三	三三〇、一一一	三七〇、四一五	二、〇〇四、九〇九	三三四、〇三三	二、四〇八、〇一五

●大正五年五月中本邦重要鐵山
及炭坑產額表(農商務省鑛山局調)

鐵の產出狀況

鑛山名	所在地	大正五年五月	大正四年五月
釜石	岩手(銑鋼)	九八七、六〇五	六四六、七八二
仙石	同(銑)	五八七、五九七	三三七、〇六九
栗木	同(銑)	九四、七八二	—
輪西	同(銑)	七六、九四三	五七、七五二
石炭の產出狀況			
鑛山名	所在地	大正五年五月	大正四年五月
夕張	石狩	一三〇、七一九、四三四 ^斤	一三三、九六三、一六八 ^斤
眞谷地	同	二一、四三六、二九六	一八、九二七、五五二
新夕張	同	二九、五六四、九二六	一九、三三〇、九八八
空知	同	三四、〇三六、二六四	三四、一四六、一三六
幾春別	同	九、〇一三、〇三三	一〇、九一〇、四三四
幌內	同	二五、九一〇、八〇八	二三、二六六、七三〇
奔別	同	一一、〇二九、二〇〇	一一、九四四、六三三
三井登川	同	一五、八一八、三三六	一九、三七一、三四一
大夕張	同	一〇、五〇五、一五八	一〇、九一八、六七三
三美唄	同	三三、四三四、七五三	三四、〇三九、七七五
入山	福島	七六、一九五、一六	七四、一五六、〇七六
小野田	同	三三、四一七、〇〇〇	三〇、八五三、〇〇〇

統計

內郷	福島	六四、三八八、七六〇	五三、六〇一、〇〇〇
王城	同	一一、四三九、九七〇	四、九九九、三三〇
好間	同	五〇、四三九、一一〇	四五、〇三七、六六〇
隅田川	同	一一、七八三、〇六〇	七、五七九、三三九
平	同	八、六八九、〇三九	七、九一七、七五三
茨城無煙	茨城	三三、〇九九、八三八	二五、六六八、九三三
重内	同	一一、二一〇、九〇二	一一、一〇四、九〇〇
山口無煙	山口	九、〇七七、一〇四	四、八四三、五七三
茨城	茨城	一九、九四三、〇一九	二〇、六九七、六八四
清田	同	八、三六八、四九九	六、七二二、七四四
松浦	長崎	八、九五九、六〇八	一〇、一〇三、五九二
高島	同	三六、六七七、一三八	四〇、六五四、七三三
松島	同	三九、五三〇、三三〇	四八、二四一、二〇〇
崎戸	同	四九、〇〇七、〇七八	三六、八三四、五五八
香燒	同	四、五八八、三五〇	四、八九九、七五四
福島	同	一四、四一五、六四〇	一四、七三三、三五〇
沖ノ山	山口	二九、六六三、九〇〇	三三、三三七、二〇〇
大嶺海軍	同	八、七三三、三四〇	八、八八七、九〇八
東見初	同	一四、九九九、九二〇	—
大正	福岡	一〇、七〇九、三〇〇	一三、一七九、六〇〇
大辻	同	三七、〇六八、三三〇	三五、九七五、四二〇
高江	同	二五、八八〇、五七〇	一三、三六八、七七〇
新	同	一一、四六〇、九六〇	一一、〇五〇、四〇〇

八七三

新原海軍	福岡	四八、一〇九、八二六	四七、〇八六、一七五
岩崎	同	一三、三五六、一〇〇	一八、七六七、五〇〇
御徳	同	一四、三七一、六三六	一九、七八二、二一〇
新入	同	五七、九六八、七七〇	五一、〇一六、九三五
三好	同	一三、七八八、三八八	一三、一八四、〇〇〇
大之浦	同	一〇〇、一三三、七七〇	八五、六一四、七八〇
明治	同	六三、九二二、八一〇	五九、九七七、六二八
三本洞	同	三三、七三六、八八〇	三五、五七三、三三〇
鹽尻	同	五九、七一九、四四〇	四七、一九八、八三〇
木屋瀬	同	一八、一二四、六九四	一四、五八三、二七六
金田	同	三四、六七一、〇一七	四〇、七九八、六九九
大峯	同	四八、八三五、九二〇	三二、三三五、二〇〇
赤池	同	一七、九九七、七四五	一三、九二九、一七〇
三田川	同	一四六、五三〇、〇四一	一一九、七〇一、〇四二
井田	同	七五、八七三、一六〇	七一、三九三、二八〇
峯地	同	七三、四七四、〇九七	六六、〇三三、一九三
豊國	同	九三、九九八、四五〇	八九、九九〇、九五六
二瀬	同	五七、七四三、一九六	五四、六五一、五九三
忠隈	同	二六、二六三、三九〇	二三、八八八、二三六
上山田	同	六三、三七九、八四八	五五、六〇四、六四〇
餘田	同	一九、六〇八、九六〇	一三、八五一、六〇〇
豆田	同	五一、二七九、一四四	五三、〇五八、二一四
三山野	同	四〇、一七七、二〇〇	三六、四〇〇、五六〇
井山	同		
芳雄	同		

下山田	福岡	二三、三九七、九三〇	一八、八一九、六九〇
三池	同	二八、八六〇、四九六	二五〇、四五六、二六四
方城	同	三四、二二一、七三三	一六、九四四、四六三
中鶴	同	一四、五三〇、七三〇	一二、一九〇、〇〇〇
室木	同	一四、〇五六、〇〇〇	五、六一八、八〇〇
大隈	同	一三、六七三、〇〇〇	九、八二七、六八五
高松	同	一〇、七九三、六三三	九、七九八、〇〇〇
高田	同	九、〇五一、五九〇	一〇、三八六、八〇八
龜山	同	一四、九九八、四六〇	九、九三一、一八〇
旭山	同	八、四八七、〇〇〇	一一、四六八、九六〇
三笠	同	九、三三四、八八〇	一二、六七〇、〇〇〇
泉水	同	一八、三三七、三一〇	九、一八七、九二〇
平山	同	六、二八九、九三〇	一六、七八三、六五五
野田	同	七、二九八、三四〇	八、五四二、八〇〇
宇美	同	六、三三四、八二〇	八、六五四、三八〇
新目尾	同	二二、〇七三、一〇〇	九、五五一、八八〇
大谷	同	一九、五〇三、八八〇	三、三五八、〇〇〇
姪濱	同	一五、六〇八、一三〇	一四、〇〇三、〇四二
福岡	同	一五、六〇八、一三〇	九、一九一、〇四〇
杵島	佐賀	五七、四六八、四九九	一〇、五三二、〇八〇
相知	同	七〇、四九二、〇一〇	五一、三二一、五〇三
芳谷	同	五五、一六九、七三〇	八〇、六五三、三九八
杵島第二	同	三四、五二五、四四〇	四四、二八二、七五〇
岩屋	同	七、一七一、三八二	二四、八三九、七〇〇
久原	同		一一、六一八、八四二